

授業概要（シラバス）

<理学療法学科 2学年>

令和6年度

学校法人 君津あすなる学園
千葉医療福祉専門学校

学年別科目一覧

	科目名	備考	開講期	分野	単位	時間	コマ数	PT科担当	OT科担当	非常勤講師
1 学 年	心理学	前期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	兼子,原,早川,松	渡邊博
	心理学	後期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	兼子,原,早川,松	渡邊博
	情報コミュニケーション学Ⅰ		前期	基礎分野	1	15	8	小林		
	情報コミュニケーション学Ⅱ		前期	基礎分野	1	15	8	小林		
	情報コミュニケーション学Ⅲ		前期	基礎分野	1	15	8	小林		
	公衆衛生学		後期	基礎分野	1	15	8	秋山	武井	小倉康平
	基礎演習Ⅰ	前期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	18	秋山,富永		
	基礎演習Ⅰ	後期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	18	秋山,富永		
	基礎演習Ⅱ	前期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	18	小林,富永		
	基礎演習Ⅱ	後期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	18	小林,富永		
	基礎数学		通年	基礎分野	2	30	18	小林,秋山	金谷	
	健康と身体		通年	基礎分野	1	30	15	富永	金谷,兼子,武井	川原元
	社会福祉概論		後期	基礎分野	1	30	15	秋山	武井	佐藤真生子
	人体の構造Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷	
	人体の構造Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷	
	人体の構造Ⅲ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	原	
	人体の構造Ⅳ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	原	
	人体の機能Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井	
	人体の機能Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井	
	運動学Ⅰ		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷	
	リハビリテーション医学Ⅰ 栄養予防		後期	専門基礎分野	2	30	15	富永	兼子	岩崎麻美
	病理学		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	リハビリテーション概論Ⅰ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	兼子	その他
	リハビリテーション概論Ⅰ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	兼子	その他
	理学療法概論	前期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村		
	理学療法概論	後期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村		
	基礎理学療法Ⅰ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村,富永		
	理学療法評価学Ⅲ(ROM)		後期	専門分野	1	30	15	富永		
	地域リハビリテーション		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤清治,ゴルディオックス
	職業リハビリテーション		後期	専門分野	1	15	8	小林		
	リハビリテーション機器		前期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤清治
	地域リハビリテーション実習		通年	専門分野	1	40		秋山		
	ソーシャルアクティブラーニング		通年	その他	1	30	15	藤原,小林,富永		志保健一郎
	総合実習Ⅰ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
総合実習Ⅱ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
総合実習Ⅲ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
臨床思考実習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
人間発達学		前期	基礎分野	1	30	15	岡村	金谷		
人体の構造実習		通年	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林	金谷		
人体の機能実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷,武井		
運動学Ⅱ		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,富永	武井		
運動学Ⅲ		後期	専門基礎分野	1	30	15	小林	金谷		
機能解剖学		後期	専門基礎分野	1	15	8	藤原,小林		須藤祐亮	
運動生理学		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村,富永			
リハビリテーション医学Ⅱ 薬理		前期	専門基礎分野	1	15	8	岡村	兼子	富沢道俊	
内科学	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行幸	
内科学	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行幸	
運動薬理学	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
運動薬理学	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
臨床神経学Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
臨床神経学Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
精神医学	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	藤部		
精神医学	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	藤部		
臨床心理学		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村		渡邊博	

2
学
年

2 学 年	リハビリテーション概論Ⅱ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川	
	リハビリテーション概論Ⅱ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川	
	基礎理学療法Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村		
	基礎理学療法Ⅲ(正常発達)		後期	専門分野	1	15	8	岡村		
	理学療法評価学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山,富永		
	理学療法評価学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,富永		
	理学療法評価学Ⅳ(MMT)		前期	専門分野	1	30	15	富永		
	理学療法評価学Ⅵ(画像診断)		後期	専門分野	1	15	8	藤原		本間星美
	理学療法評価学演習		後期	専門分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	物理療法Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	秋山		
	物理療法Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村		
	器具学		後期	専門分野	1	20	10	藤原		
	職能学		後期	専門分野	1	30	15	小林		
	日常生活動作Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山		
	日常生活動作Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	富永		
	慢性疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	小林		本間星美
	住宅改修		後期	専門分野	1	30	15	富永		本間星美
	臨床計測実習		後期	専門分野	1	40		富永		
	総合共同演習Ⅰ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	総合共同演習Ⅱ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永		
臨床思考演習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
運動学実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,岡村			
3 学 年	リハビリテーション医学Ⅲ(工学)		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		その他
	救急救命法		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		日本赤十字
	理学療法研究法		通年	専門分野	1	30	15	小林		
	理学療法管理学		前期	専門分野	2	30	18	藤原		松田肇
	理学療法評価学Ⅴ(高次級)		前期	専門分野	1	15	8	岡村		安藤龍治
	臨床器具学実習		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤,志塚
	動作分析		前期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村		
	整形外科理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	小林,岡村		
	整形外科理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村		
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	藤原		倉山太一
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村		
	スポーツ疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	藤原		奥村麻耶,本間秀文
	呼吸器疾患理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		新堀健士
	小児理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		平野いづみ
	老年期理学療法治療学		後期	専門分野	1	15	8	秋山		安藤龍治
	循環・代謝疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	秋山		新堀健士
	理学療法技術論Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	藤原,秋山,岡村		
	理学療法技術論Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村,富永		
	臨床評価実習		後期	専門分野	4	180		藤原		
	総合共同演習Ⅲ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
総合実践演習Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
総合共同演習Ⅲ	前期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
総合共同演習Ⅲ	後期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
臨床思考演習Ⅲ		通年	その他	1	15	8	小林			
卒業研究Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
4 学 年	臨床総合実習		前期	専門分野	14	630		小林		
	総合共同演習Ⅳ		通年	その他	2	120	60	小林		
	臨床思考演習Ⅳ		通年	その他	1	20	10	小林		
	卒業研究Ⅱ		前期	その他	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永		

PT2年	前期	講義概要	一般目標
基礎分野 人間発達学		本講義は「人間発達学」の概論と発達の各時期・年齢に応じた変化・発達を理解・学習する 正常発達や発達障害のリハビリテーションを学ぶ上での基礎知識を理解・学習する。	◎子どもから老人までの、人間発達の概観を理解する。 ◎発達の5原理ほか基本的な発達特性を理解する。 ◎正常発達の、誕生から就学前までの心身の発達の概要を説明できる。
基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科:	岡村		
作業療法学科:	○金谷		
非常勤講師:			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	第1章：発達概念 第2章：人間発達（発達理論）	○発達に関する定義、発達の原則、発達の重要性 ○エリクソンの発達理論	
2	第2章：人間発達（発達理論）	○ピアジェの発達理論 ○フロイトの発達理論 ○その他の発達理論	
3	第3章：発達検査	○発達検査とは？ ○標準化された発達検査とは？	
4	第4章：姿勢反射／反応	○原始反射、姿勢反射／反応とは？ ○原始反射の出現・統合とは？	
5	第5章：運動発達（0～3カ月）	○各肢位における運動発達を概観する ○特に、定頭・正中位指向について理解を深める	
6	第6章：運動発達（4～6カ月）	○各肢位における運動発達を概観する ○特に、寝返り・座位獲得について理解を深める	
7	第7章：運動発達（7～9カ月）	○各肢位における運動発達を概観する ○特に、移動運動（はいはいつかまり立ち）について理解を深める	
8	第8章：運動発達（10～12カ月）	○各肢位における運動発達を概観する ○特に、伝い歩き・独歩の獲得について理解を深める	
9	第9章：運動発達（13～18カ月）	○各肢位における運動発達を概観する ○特に、初期歩行・応用歩行について理解を深める	
10	第13章：感覚・知覚・認知・社会性の発達	○生きるために必要な感覚と、それを処理する知覚・認知の構造を理解する。 ○社会生活に必要な機能の発達を理解する。	
11	第11章：上肢機能の発達	○上肢における様々な機能と、その発達過程を理解する。	
12	第12章：ADLの発達（遊び・食事）	○遊び・食事の発達過程を理解する。 ○こどもの遊び・食事場面の観察により、こどもの生活のイメージを持つ。	
13	第12章：ADLの発達（排泄・更衣）	○排泄・更衣の発達過程を理解する。 ○ADLの発達表を作成することで、こどもの発達の全体像を捉える	
14	第14章：学童・青年・成人・老年期の発達	○各時期の発達課題・特徴・キーワードについて理解する	
15	まとめ 学習理解度確認	○試験を通じて理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
教科書：上杉雅之(監修)：イラストでわかる人間発達学。医歯薬出版株式会社、2015。参考書：岩崎清隆ほか(著)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野、人間発達学。医学書院、2010。土田玲子(監修)：感覚統合Q&A。改訂第2版、協同医学出版社、2013。資料：今井和子(監修)：0・1・2歳児 乳幼児の育ち事典1～3、小学館、2009。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：80点（前期試験） 平常点：20点（ワークシート）		月齢・年齢に応じてできることを理解すると共に、その過程・つながりを学習して下さい。 毎回のワークシート提出により、出席とします。 ワークシートは自身の学習の振り返りのために、“自由に”取り組んでください。 授業内で気づいたことや疑問などは率直にワークシートに記載してください。 また、それ以外の発達に関する質問なども積極的にして貰えると授業が活発になります。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>体表から骨や筋に実際に触れることで、机上で得た知識の理解を深めていく。評価や治療に必要な体表解剖の知識と触診技術を身につける。</p>	<p>構造を立体的にイメージし、実際に触れることで内部構造を「探る」ことができるようになる。触診の方法論の習得を目的とするため、授業で触れていない筋に関しても、自ら「探る」ことができるようになる。</p>
<p>人体の構造実習</p>			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○藤原,小林		
作業療法学科：	金谷		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	骨関節・筋の体表解剖（上肢・上肢帯）	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実戦できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
2	骨関節・筋の体表解剖（上肢・上肢帯）	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実戦できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
3	骨関節・筋の体表解剖（上肢・上肢帯）	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実戦できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
4	骨関節・筋の体表解剖（上肢・上肢帯）	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実戦できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
5	骨関節・筋の体表解剖（上肢・上肢帯）	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実戦できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
6	骨関節・筋の体表解剖（下肢・下肢帯）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
7	骨関節・筋の体表解剖（下肢・下肢帯）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
8	骨関節・筋の体表解剖（下肢・下肢帯）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
9	骨関節・筋の体表解剖（下肢・下肢帯）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
10	骨関節・筋の体表解剖（下肢・下肢帯）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
11	骨関節・筋の体表解剖（体幹）	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
12	習得度確認	習得度の確認を行う	
13	習得度確認	習得度の確認を行う	
14	習得度確認	習得度の確認を行う	
15	補習・復習	理解や習得の不足している項目に関して、理解度・習得度を深める。	
教科書・参考書・資料			
参考書：林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』メジカビュー 2012、林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』メジカビュー 2012			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：100点		触診の授業の際は、触診部位が露出できる服装で臨むこと。実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿であることが基本条件となる。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		運動など生命現象にかかわる事象について、運動生理および電気生理学的手法を用いて解析する。実験結果についてワークシートにまとめる。	講義で学んだ生理学的事象について実際の実験を通して理解を深める。各実験手法および得られたデータを解析し、ワークシートにまとめる能力を身につける。
人体の機能実習			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： ○藤原 作業療法学科： 金谷,武井 非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	授業内の課題等について説明する。	
2	等尺性収縮【藤原】	動作筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
3	等尺性収縮【藤原】	動作筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
4	運動による呼吸機能の変化【金谷】	運動による換気機能の変化を捉えることができる	
5	運動による呼吸機能の変化【金谷】	運動による換気機能の変化を捉えることができる	
6	スパイロメーター、心電図【武井】	スパイロメーター、心電図が使えるようになり、データを読み取ることができる	
7	スパイロメーター、心電図【武井】	スパイロメーター、心電図が使えるようになり、データを読み取ることができる	
8	神経伝導速度の計測【藤原】	誘発筋電図を用いて神経伝導速度を計測することができるようになる。	
9	神経伝導速度の計測【藤原】	誘発筋電図を用いて神経伝導速度を計測することができるようになる。	
10	H波M波【藤原】	誘発筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
11	H波M波【藤原】	誘発筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
12	運動負荷【金谷】	運動における心拍数の測定やその変化を体験・学ぶ	
13	運動負荷【金谷】	運動における心拍数の測定やその変化を体験・学ぶ	
14	皮膚感覚【武井】	皮膚感覚とその受容器の分布の違いについて理解できる	
15	皮膚感覚【武井】	皮膚感覚とその受容器の分布の違いについて理解できる	
教科書・参考書・資料			
参考書：『新・生理学実習書』 日本生理学会編 南江堂 1991、『臨床神経生理学』 柳沢・柴崎 医学書院 2008、『計測法入門』 内山他著 協同医書出版 2001、『脳波判読 step by step 第4版 入門編』 大熊他著 医学書院 2006・その他資料は各教員から必要に応じて配布される ・生理学の教科書を持参すること			
判定基準／割合		履修上の留意点	
能動的参加点・ワークシートの記入と提出：100%		事前に配布する「人体の機能実習概要」を参照し、各実習の予定・実施場所・担当者を把握し、円滑に実習をすすめるように準備をすること。本講義では7種類の実習を行う（1実習2コマ）	

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		四肢体幹の筋や靭帯など関節構成要素の構造と機能について学習する。筋の起始、停止、神経支配を理解し各運動における作用を考察する。	各筋の起始、停止、神経支配を理解する。筋、靭帯等の運動時の作用について理解する。
運動学 II			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○藤原, 富永		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	膝関節 (藤原)	膝関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について実習も含めながら学習する	
2	膝関節 (藤原)	膝関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について実習も含めながら学習する	
3	足関節 (藤原)	足関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について実習も含めながら学習する	
4	足関節 (藤原)	足関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について実習も含めながら学習する	
5	足関節 (藤原)	足関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について実習も含めながら学習する	
6	脊柱 (頸椎、胸椎、腰椎) (富永)	脊柱の靭帯と制限要素・バイオメカニクス、胸郭の運動と呼吸。	
7	骨盤・股関節 (富永)	靭帯の緊張と運動制限、仙骨の運動、頸体角・前捻角について学習する	
8	骨盤・股関節 (富永)	靭帯の緊張と運動制限、仙骨の運動、頸体角・前捻角について学習する	
9	肩甲帯・肩関節 (富永)	肩甲帯・肩関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について学習する	
10	肩甲帯・肩関節 (富永)	肩甲帯・肩関節の機能解剖 (関節構成要素、構造、バイオメカニクス等) について学習する	
11	肘関節・前腕① (武井)	肘関節に関する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
12	肘関節・前腕② (武井)	肘関節に関する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
13	手関節・手指① (武井)	橈骨手根関節に関与する筋、靭帯、関節包の機能について学習する	
14	手関節・手指② (武井)	手根中央関節・手根中手関節に関与する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
15	理解度の確認	筆記試験 (前期試験期間内に実施)	
教科書・参考書・資料			
中村隆一著 基礎運動学 (第6版) 補助資料：筋骨格系のキネシオロジー カバンディ関節の生理学 I・II・III			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：10%、素点：90% (藤原30%, 富永30%, 武井30%)		筋の走行を確認するため、ジャージなど動ける格好をしてきてください。 筋肉の起始、停止、作用は必ず覚えてきてください。	

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		<p>これまでに学んだことを姿勢、歩行など実用的な動作レベルで理解する。また、姿勢や歩行について運動学的用語を用いた表現を可能とするための土台を作り、動作分析に応用できるようにする。さらに、運動発達過程、運動学習について学ぶ。</p>	<p>立位姿勢を力学的観点から視ることにより、臨床応用へと結びつける。歩行周期で歩行を観察し、運動学的また運動力学的に歩行を捉えることができる。中枢疾患治療の基礎となる運動発達および運動学習理論を身に付ける。</p>	
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○小林			
作業療法学科：	金谷			
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	姿勢	姿勢評価に必要な基本的なアライメントや骨指標を覚える。視点が変化することにより、姿勢評価は多岐にわたることを理解する。		
2	立位姿勢の制御・異常	無意識で行われている姿勢制御の仕組みや姿勢保持に関わる筋の働きを理解する。基礎知識から運動療法に至る過程をイメージできる。		
3	歩行周期	歩行周期を基本に、歩行の特徴を表す要因を理解する。		
4	歩行の運動学的分析①	歩行時の関節運動について理解する。		
5	歩行の運動学的分析②	重心の移動や歩行エネルギーの効率化を図るための合理的な仕組みを理解する。また、歩行の神経機構について理解する。		
6	歩行の運動力学的分析	歩行時の筋活動やパワー、床反力の働きなどについて理解する。		
7	問題演習	国試過去問の問題演習により、知識の定着を図る。		
8	運動分析・作業分析	○一般的な運動分析・作業分析の概略を理解する。○運動分析の手法を用い、様々な運動の分析を体験する。(グループワーク)		
9	運動分析 ワークショップ	○前回学習した運動分析の手法を用い、様々な運動の分析を体験する。(グループワーク)		
10	運動分析 ワークショップ発表	○グループワークにて実施した運動分析の結果を発表する。○各グループが発表した分析結果を検証する。		
11	運動学習	○ヒトが新規の運動を学習する過程を知る。○運動学習理論にて使用される用語が理解できる。		
12	運動学習 スキーマ理論	○運動学習と記憶との関連を理解する。○スキーマ理論の概略を理解する。○スキーマ理論で使用される用語を理解する。		
13	運動学習 スキーマ理論	○運動学習と記憶との関連を理解する。○スキーマ理論の概略を理解する。○スキーマ理論で使用される用語を理解する。		
14	学習の諸理論 練習と訓練	○様々な学習の理論を復習し、運動学習とのつながりを理解する。○学習を成立させるための練習や訓練の種類や形式を知る。		
15	理解度の確認	○筆記試験を通じて理解度を確認する。		
教科書・参考書・資料				
教科書：中村隆一ほか(著)：基礎運動学、第6版補訂、医歯薬出版株式会社、2012、				
参考書：観察による歩行分析、医学書院、				
セラピストのための運動学習ABC、文光堂				
判定基準/割合		履修上の留意点		
<p>素点：小林45%、金谷45% 平常点：10%</p>		<p>○1年次および2年次前期に履修した運動学、解剖生理学、心理学、人間発達学などと深い関りがある内容ですので、復習をしてから受講してください。</p>		

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		運動器疾患の治療を行うにあたり、関節運動における軟部組織の役割や筋腱滑走部・停止部に加わるメカニカルストレスについて理解しておくことは重要である。講義で学んだ機能解剖の内容を整形外科的テストで確認することにより、将来的に評価や治療場面での臨床応用へと繋げる。	各関節周囲の機能解剖を理解し、組織に加わるメカニカルストレスや柔軟性の低下が痛みの発現や関節運動に及ぼす影響を推測することができる。また、推測した原因を整形外科的テストや機能テストで確認することができる。
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科：	○藤原,小林		
作業療法学科：	須藤祐亮		
非常勤講師：		この講義で学ぶこと・行動目標	
回	項目		
1	【ケーススタディ①】	臨床場面を見学することを通して現場で 사용되는評価手技と機能解剖との関連性について学ぶ	
2	【ケーススタディ②】	臨床場面を見学することを通して現場で 사용되는評価手技と機能解剖との関連性について学ぶ	
3	【実技】	機能解剖学的な観点に留意しながら整形外科的テストを実施できる	
4	【実技】	機能解剖学的な観点に留意しながら整形外科的テストを実施できる	
5	【実技】	機能解剖学的な観点に留意しながら整形外科的テストを実施できる	
6	【実技】	機能解剖学的な観点に留意しながら整形外科的テストを実施できる	
7	【実技】	機能解剖学的な観点に留意しながら整形外科的テストを実施できる	
8	【実技】 確認	これまでに実施した整形外科テストの習熟度を確認する。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
参考書：吉田・隈元編『病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト』ヒューマン・プレス 2021, 工藤著『運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学』医学書院 2012など			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点		実技と講義の両方を行いますので、上下肢の関節を露出しやすい服装で参加してください。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		<p>身体運動遂行時の体の機能や適応能について学ぶ。身体運動を継続した時にどのような永続的適応（トレーニング効果）を示すのか、そしてそれらの背景となる生理学的機序について学習を進める。</p>	<p>理学療法士・作業療法士として臨床場面で生ずる運動療法による身体所見について生理学的根拠を持って説明することができる。</p>	
運動生理学				
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○岡村,富永			
作業療法学科：	武井			
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション①糖質	糖質代謝について説明できる。		
2	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション②脂質	脂質代謝について説明できる。		
3	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション③蛋白質	蛋白質代謝について説明できる。		
4	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション④ビタミン	ビタミンの機能について説明できる。		
5	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	圧受容器反射について説明できる。		
6	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	化学受容器反射について説明できる。		
7	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	乳酸が蓄積するメカニズムと呼吸性代償について説明できる。		
8	【PT科のみ】筋の生理学	速さ-張力曲線、遠心性収縮、求心性収縮、直列弾性要素、並列弾性要素、収縮要素、羽状筋、紡錘状筋について説明できる。		
9	【PT科のみ】グループワーク	垂直跳びと階段昇段時の心拍数の計測と、結果の評価ができる。		
10	【PT科のみ】グループワーク	垂直跳びと階段昇段時の心拍数の計測と、結果の再評価ができる。		
11	【PT科のみ】グループワーク	垂直跳びの再評価の内容について発表資料を作成できる。		
12	【PT科のみ】グループワーク	心拍数の再評価の内容について発表資料を作成できる。		
13	【PT科のみ】グループワーク	垂直跳びの再評価の内容について発表ならびに質疑応答ができる。		
14	【PT科のみ】グループワーク	垂直跳びの再評価の内容について発表ならびに質疑応答ができる。		
15	【PT科・OT科合同】理解度の確認	筆記試験にて判定する。		
教科書・参考書・資料				
参考書：リハビリテーション運動生理学 玉木彰 著 MEDICALVIEW				
判定基準/割合		履修上の留意点		
素点：筆記試験 90点 平常点：10点		筆記試験においては、PT科OT科合同授業で扱った範囲から出題する		

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーション実施にあたり薬物の影響を観察し考慮することは臨床の場において重要である。薬の基礎知識を学習しリハビリテーションへの活かし方を学ぶ。	・薬の作用について理解する。・薬の使い方について理解する。・リハビリテーションへの活かし方を考える。
リハビリテーション医学Ⅱ 薬理			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科:	○岡村		
作業療法学科:	兼子		
非常勤講師:	富沢道俊		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	薬理学・臨床薬理学の学び方	リハビリテーションへの活かし方。人体の成り立ち。疾患治療の本質。	
2	薬の基礎知識	薬の概念と分類	
3	薬の作用	生体内での働き	
4	薬の作用に影響する因子	薬の使い方	
5	薬物療法①	感染・炎症の制御と薬物療法。神経疾患の薬物療法。	
6	薬物療法②	精神疾患の薬物療法。循環器系疾患の薬物療法。	
7	薬物療法③	疼痛の制御と薬物療法。注意すべき品用される薬物。	
8	振り返り	知識の整理	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
教科書：リハベーシック 薬理学・臨床薬理学			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：100点		事前に生理学の復習を行うことが望ましい。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>広範に及ぶ内科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。</p>	<p>①重要な内科疾患について家族や知人に説明できる。 ②自身が重要な内科疾患を理解するためにDrに質問できる。 ③生理学の基礎知識の理解を深める。</p>
内科学			
前期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○岡村,富永		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：	庄司行孝		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
2	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
3	進捗報告会(グループ別報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
4	進捗報告会(グループ別報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
5	進捗報告会(全体報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
6	進捗報告会(全体報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
7	進捗報告会(グループ別報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
8	進捗報告会(グループ別報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
9	進捗報告会(全体報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
10	進捗報告会(全体報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
11	予習資料作成①	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
12	予習資料作成②	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
13	補足講義	取り上げた内科疾患の理解をさらに深める	
14	補足講義	取り上げた内科疾患の理解をさらに深める	
15	前期のまとめ	グループワークの振り返り	
教科書・参考書・資料			
奈良勲 監修 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 素点：50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>広範に及ぶ内科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。</p>	<p>①重要な内科疾患について家族や知人に説明できる。 ②自身が重要な内科疾患を理解するためにDrに質問できる。 ③生理学の基礎知識の理解を深める。</p>
内科学			
後期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○岡村,富永		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：	庄司行孝		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
2	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
3	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
4	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
5	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
6	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
7	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
8	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
9	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
10	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
11	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
12	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
13	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
14	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
奈良塾 監修 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 棄点：50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>広範に及ぶ整形外科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。</p>	<p>①重要な整形外科疾患について、家族や知人に説明できる。 ②X線、MRIなどの画像所見を読めるようになる。画像から読み取れるリスクがわかる。 ③疾患理解する過程において、検査・測定・運動療法上の注意点も含めてDrに質問できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識の理解を深める。</p>
運動器病態学			
前期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○藤原,富永		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：	保住寛		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
2	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
3	進捗報告会(グループ別報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
4	進捗報告会(グループ別報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
5	進捗報告会(全体報告1回目③)	グループワークの進捗状況を報告する	
6	進捗報告会(全体報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
7	進捗報告会(グループ別報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
8	進捗報告会(グループ別報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
9	進捗報告会(全体報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
10	進捗報告会(全体報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
11	予習資料作成①	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
12	予習資料作成②	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
13	補足講義	取り上げた整形外科疾患の理解をさらに深める	
14	補足講義	取り上げた整形外科疾患の理解をさらに深める	
15	前期のまとめ	グループワークの振り返り	
教科書・参考書・資料			
教科書：病気がみえる①運動器・整形外科 適宜資料を配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 素点：50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>広範に及ぶ整形外科の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。</p>	<p>①重要な整形外科疾患について、家族や知人に説明できる。 ②X線、MRIなどの画像所見を読めるようになる。画像から読み取れるリスクがわかる。 ②疾患理解する過程において、検査・測定・運動療法上の注意点も含めてDrに質問できる。 ③解剖学・運動学の基礎知識の理解を深める。</p>
運動器病態学			
後期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○藤原,富永		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：	保住寛		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
2	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
3	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
4	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
5	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
6	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
7	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
8	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
9	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
10	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
11	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
12	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
13	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
14	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書：病気がみえる④運動器・整形外科 適宜資料を配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 素点：50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		伸張反射および下行性伝導路（錐体路・錐体外路）を含む運動系についての基礎知識と臨床的意義について学ぶ。また、上位運動ニューロンと下位運動ニューロンの概念について学ぶ。	筋緊張検査や深部腱反射の結果の解釈と説明ができる。痙縮や固縮の発症機序について理解し、説明することができる。
臨床神経学Ⅰ			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○秋山,岡村		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論	筋の運動に関わる経路の確認、反射に関わる流れの確認	
2	総論	筋の運動に関わる経路の確認、反射に関わる流れの確認	
3	錐体路と錐体外路	なぜ錐体路と錐体外路に分かれる必要があるのかを理解する	
4	腱反射の亢進	なぜ深部腱反射を実施するのか（なにを考察したいのか）を理解する	
5	腱反射の亢進	なぜ上腕二頭筋の反射が出やすく、上腕三頭筋の反射が出にくいのかを理解する	
6	腱反射の亢進	なぜ大腿四頭筋の反射が出やすく、大腿二頭筋の反射が出にくいのかを理解する	
7	錐体路徴候	なぜ錐体路障害で、痙縮、折り返みナイフ現象が出現するのかを理解する	
8	理解度の確認	本試験	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
病気がみえる②脳・神経（MEDIC MEDIA）、その他配布資料			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：本試験90点分		特になし	

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		脳血管疾患や変性疾患の病態について、神経生理学的に学ぶ。病態理解に必要となる中枢神経系の解剖学について、理解を深める。	中枢神経系の解剖を説明することができる。脳血管疾患や変性疾患の病態について、神経生理学的に説明できる。
臨床神経学Ⅱ			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科：	秋山,○岡村		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	中枢神経系の解剖学①	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
2	中枢神経系の解剖学②	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
3	中枢神経系の解剖学③	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
4	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の病態について、神経生理学的に説明できる。	
5	多発性硬化症・ギランバレー症候群	多発性硬化症、ギランバレー症候群の病態について、神経生理学的に説明できる。	
6	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の病態について、神経生理学的に説明できる。	
7	Parkinson病	Parkinson病の病態について、神経生理学的に説明できる。	
8	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
病気がみえる②脳・神経 (MEDIC MEDIA) , その他配布資料			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点：90点 平常点：10点		特になし	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		精神医学とは精神疾患の原因、精神機能の異常、各疾患の医学的視点から見た病状、症状、治療などを学ぶ学問である。心の障害について説明する。	①精神医学とは何かを学ぶ ②精神疾患の原因、歴史について学ぶ ③精神機能の異常について理解する ④各種精神疾患について理解する ⑤国家試験の傾向について学ぶ
精神医学			
前期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	岡村		
作業療法学科：	○隈部		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	精神医学の理解	精神医学の目標と概要について学ぶ。	
2	精神機能の把握	意識障害や、知覚・記憶・知能の異常について理解する。	
3	精神機能の把握	思考の異常、感情の異常、意欲の異常について説明できる。	
4	検査法	精神科で診断に使用する検査について理解する。	
5	治療法	精神疾患の治療（身体療法、精神療法、薬物療法）について学ぶ。	
6	統合失調症	統合失調症の原因、症状、治療について理解する。	
7	統合失調症	統合失調症の原因、症状、治療について学ぶ。	
8	気分障害	気分障害の原因、症状、治療について理解する。	
9	気分障害	気分障害の原因、症状、治療について学ぶ。	
10	神経症性障害	神経症性障害の原因、症状、治療について理解する。	
11	神経症性障害	神経症性障害の原因、症状、治療について学ぶ。	
12	国家試験問題演習①	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
13	国家試験問題演習②	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
14	国家試験問題演習③	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版			
参考書：精神神経疾患 ビジュアルブック Gakken			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：30点（小テスト）70点（定期試験）		精神医学の理解を深め、国家試験の問題に慣れていきましょう。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		精神医学とは精神疾患の原因、精神機能の異常、各疾患の医学的視点から見た病状、症状、治療などを学ぶ学問である。心の障害について説明する。	①精神医学とは何かを学ぶ ②精神疾患の原因、歴史について学ぶ ③精神機能の異常について理解する ④各種精神疾患について理解する ⑤国家試験の傾向について学ぶ
精神医学			
後期分			
専門基礎分野 時間数 2 コマ数 60			
理学療法学科：岡村			
作業療法学科：○隈部			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	器質性精神障害	器質性精神障害について学ぶ。	
2	認知症	認知症の原因、症状、治療について理解する。	
3	痙攣性疾患（てんかん）	てんかんの原因、症状、治療について説明できる。	
4	ストレス関連障害	ストレス関連障害について学ぶ。	
5	摂食障害	摂食障害について説明できる。	
6	映画による疾患学習	映画を通して疾患や対象者の気持ちなどの理解を深める。	
7	映画による疾患学習	映画を通して疾患や対象者の気持ちなどの理解を深める。	
8	精神作用物質使用による精神障害および行動の障害	アルコール依存症や、その他の精神作用物質について学ぶ。	
9	発達障害	発達障害について説明できる。	
10	小児期の情動・行動障害、知的障害	小児期の情動・行動障害、知的障害について理解する。	
11	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害について学ぶ。	
12	国家試験問題演習①	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
13	国家試験問題演習②	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
14	国家試験問題演習③	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版			
参考書：精神神経疾患 ビジュアルブック Gakken			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点：30点（小テスト）70点（定期試験）		精神医学の理解を深め、国家試験の問題に慣れていきましょう。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		代表的な心理療法や心理検査について学習すると共に、臨床心理学と関わりの深い発達心理学や障害者心理について学び、メンタルケアの基礎的な知識を身につける。	臨床心理学の様々な理論を知り、臨床心理学的な患者理解の方法を理解する。心理療法および心理査定の方法や理論を知り、その適応について理解する。
臨床心理学			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○岡村		
作業療法学科：			
非常勤講師：	渡邊馨		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	臨床心理学とは何か	国試出題基準「臨床心理学」について出題内容について概観し、学習事項をガイダンスする。	
2	臨床心理学の歴史 心理療法総論	臨床心理学の歴史、心理療法の適応について理解する。	
3	生涯発達理論・障害の心理	生涯発達理論と障害の心理について学習する。	
4	心理検査・投影法（1）	性格検査のうち、投影法であるロールシャッハテスト、TAT、PFスタディについて学習する	
5	心理検査・投影法（2）	性格検査のうち、投影法であるSCTについて学習する	
6	心理検査・質問紙法	性格検査のうち、質問紙法であるMMPI、YGテストについて学習する	
7	心理検査・知能検査	知能検査の種類や内容について理解する。	
8	心理療法（1）	精神分析療法（転移逆転移、防衛機制など）について学習する。	
9	心理療法（2）	認知行動療法について学習する。	
10	心理療法（3）	森田療法、内観療法、集団精神療法などについて学習する。	
11	国家試験対策問題演習①【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
12	国家試験対策問題演習②【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
13	国家試験対策問題演習③【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
14	国家試験対策問題演習④【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
15	問題演習まとめ【限部】	試験を通して理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
資料を配布します。 参考書は、講義ごとに紹介します。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：90点（本試験にて採点）			

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		・国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援・就労支援等も含む）、社会福祉論、地域包括ケアシステムを理解し、リハビリテーション専門職が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。 ・地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。	・リハビリテーションの理念を理解する ・地域におけるリハビリテーション専門職の役割を理解する ・地域における共生の取り組み、多職種連携の仕組み、意義を理解する ・地域づくりに向けたワークショップの経験を通して地域課題やその解決策について議論することができる
リハビリテーション概論Ⅱ			
前期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○藤原		
作業療法学科：	早川		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション 地域に関する活動のまとめ	リハビリテーション概論Ⅱの概略、リハビリテーション概論Ⅰで学んだ復習 リハ概論Ⅰの地域活動と関連させ、地域に関する活動を調べる	
2	地域活動	地域に関する活動を調べる	
3	地域活動	地域とは何か、自身の調べた地域における活動をグループ内で発表する	
4	地域づくり	地域課題について考える。地域課題についてわからないところを調べる 必要な知識をまとめる	
5	地域づくり	地域課題について考える。地域課題についてわからないところを調べる 必要な知識をまとめる	
6	地域づくり	地域課題に対して自分たちで解決策を考える その中でPT/OTの役割について考えることができる	
7	地域リハビリテーションの実際①	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
8	地域リハビリテーションの実際②	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
9	地域リハビリテーションの実際③	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
10	多職種連携	多職種連携とは（意義・必要性 他） 事例検討に向けて各職種の役割を理解する	
11	多職種連携	事例検討	
12	多職種連携	事例検討	
13	多職種連携	事例検討	
14	多職種連携	事例検討	
15	発表	事例検討の発表・質疑応答	
教科書・参考書・資料			
適宜配布資料			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点 100点 グループワーク・発表 70% レポート・感想 30%		授業中は、積極的に取り組みましょう。また、グループワークは、意欲的に参加しましょう。 リハビリテーション概論Ⅰで学んだことを復習しておいてください	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>・国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援・就労支援等も含む）、社会福祉論、地域包括ケアシステムを理解し、リハビリテーション専門職が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。</p> <p>・地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。</p>	<p>・リハビリテーションの理念を理解する</p> <p>・地域におけるリハビリテーション専門職の役割を理解する</p> <p>・地域における共生の取り組み、多職種連携の仕組み、意義を理解する</p> <p>・地域づくりに向けたワークショップの経験を通して地域課題やその解決策について議論することができる</p>
リハビリテーション概論Ⅱ			
後期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○藤原		
作業療法学科：	早川		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	地域に出てみよう	オリエンテーション・準備	
2	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
3	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
4	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
5	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
6	地域に出てみよう	地域活動の振り返り	
7	多職種連携/事前オリエンテーション	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
8	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
9	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
10	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
11	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
12	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
13	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
14	多職種連携/振り返り	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
15	まとめ	地域や多職種における意義や役割の理解	
教科書・参考書・資料			
適宜配布資料			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点 100点 グループワーク・発表 70% レポート・感想 30%		授業中は、積極的な聴講。質疑、またグループ活動は、主体的に参加しましょう。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		運動療法は患者の身体機能を非侵襲的に改善・向上することができる唯一の手段である。基礎理学療法学Ⅱでは、全身持久力改善、健康増進分野に関する運動療法、動作や歩行時の筋活動やバイオメカニクスの基礎について学ぶ。	理学療法技術の裏付けとなる基礎医学を学び、理論的な治療を行う力を身に付ける。	
基礎理学療法学Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○小林,秋山,岡村			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	全身持久力改善のための運動療法①(秋山)	運動負荷試験、運動処方、運動療法の効果について理解する。		
2	腰痛の運動療法(秋山)	ウィリアムス体操、マッケンジー体操を実技を通して学ぶ		
3	失調症状の運動療法、めまいの運動療法(秋山)	フレンケル体操、エプリー法による体操を実技を通じて学ぶ		
4	その他の運動療法(秋山)	ペラー体操(圧迫骨折の体操)、コッドマン体操(肩関節周囲炎の体操)、クラップ体操(側湾症の体操)を学ぶ		
5	正常歩行	歩行時の収縮様式について(求心性収縮・遠心性収縮)について、倒立振り子運動を中心として理解を深める。		
6	正常歩行	歩行時の収縮様式について(求心性収縮・遠心性収縮)について、倒立振り子運動を中心として理解を深める。		
7	正常歩行	歩行時の収縮様式について(求心性収縮・遠心性収縮)について、倒立振り子運動を中心として理解を深める。		
8	正常歩行	歩行時の収縮様式について(求心性収縮・遠心性収縮)について、倒立振り子運動を中心として理解を深める。		
9	バイオメカニクス概論	モーメントや内力、外力など、バイオメカニクスの基本を理解する。		
10	筋の起始停止とモーメント①	筋の起始停止とモーメントについてイメージができる		
11	筋の起始停止とモーメント②	筋の起始停止とモーメントについてイメージができる		
12	重心位置とモーメント①	重心位置と内力と外力、モーメントについてイメージができる		
13	重心位置とモーメント②	重心位置と内力と外力、モーメントについてイメージができる		
14	歩行時に筋活動とモーメント①	歩行時の筋活動とモーメントについてイメージができる		
15	歩行時に筋活動とモーメント②	歩行時の筋活動とモーメントについてイメージができる		
教科書・参考書・資料				
授業毎の配布資料				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点:100点		実際に体を動かしながら、イメージをもって学習をすすめること。		

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		小児（特に乳幼児）の正常発達について総合的に学ぶ	小児（乳幼児）の反射の出現・消失と運動発達の関連を総合的に理解・説明できる。正常発達に関与する心身機能について、生理学的に説明できる。	
基礎理学療法学Ⅲ（正常発達）				
専門分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科：	○岡村			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	粗大運動発達	乳幼児の運動発達の月齢や流れ・関連する原子反射について理解する		
2	微細運動発達	乳幼児の運動発達の月齢や流れ・関連する原子反射について理解する		
3	微細運動発達	乳幼児の運動発達の月齢や流れ・関連する原子反射について理解する		
4	遺伝と環境	正常発達における遺伝と環境の要因について理解する		
5	栄養と代謝	胎児から乳児期に必要な栄養と代謝機能・関連疾患について理解する		
6	発達とホルモン	胎児と母体の健康を維持するホルモンについて理解を深める		
7	中枢神経系の発達	胎児～乳幼児～成人までの中枢神経系の発達について理解を深める		
8	中枢神経系の発達	胎児～乳幼児～成人までの中枢神経系の発達について理解を深める		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
配布資料				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：100点		平常点は課題にて判定する。1つの講義に対して1つの課題を提出すること。提出期限は次回の授業開始時までとする。講義が中心となるが、なにかしらの「発見」が得られるよう、いずれの回も主体的に取り組むこと。		

PT2年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		各測定項目の知識・技術を身につける。	各測定項目の目的を理解し、正確に実施することができる。各項目に関連する運動生理学の知識との関連性を感じることができる。	
理学療法評価学Ⅰ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○秋山,富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	筋緊張検査(秋山)	筋緊張とは。筋緊張検査(被動性検査、懸振性検査、伸張性検査)		
2	筋緊張検査(秋山)	筋緊張検査の解釈の仕方		
3	予備日(秋山)	全体を通じて実技練習、補足が必要であれば実施する		
4	反射検査の意義と目的、注意事項。深部反射検査①(秋山)	反射検査の意義・目的。判定方法。表在反射と深部腱反射の違い。膝蓋腱反射・アキレス腱反射		
5	深部反射検査②・病的反射①(秋山)	下顎反射・上腕二頭筋反射・上腕三頭筋反射・腕橈骨筋反射・回内筋反射・ホフマン反射・トレンナー反射・バビンスキー反射・チャドック反射		
6	深部反射検査③・病的反射②・表在反射(秋山)	胸筋反射・腹筋反射・腹壁反射・足底反射・オッペンハイム反射・ゴードン反射・シェファー反射・ゴンダ反射・クロームス		
7	バイタルサイン検査	意識の検査、脈拍の検査		
8	バイタルサイン検査と解釈の仕方	血圧測定、呼吸状態の検査		
9	形態測定	四肢長計測、周径計測		
10	整形外科テスト	下肢の整形外科テスト		
11	整形外科テスト	下肢の整形外科テスト		
12	予備日	全体を通じて実技練習、補足が必要であれば実施する		
13	習得度確認	実技試験		
14	習得度確認	実技試験		
15	習得度確認	実技試験		
教科書・参考書・資料				
教科書：PT・OT入門 イラストでわかる評価学 上杉雅之編 医歯薬出版株式会社				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：10点、素点：実技試験90点(秋山45点、富永45点)		運動に適した服装で授業に臨むこととする。		

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		各測定項目の知識・技術を身につける。	各測定項目の目的を理解し、正確に実施することができる。各項目に関連する運動生理学の知識との関連性を感じることができる。	
理学療法評価学Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○秋山,富永			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	片麻痺運動機能検査（総論）（秋山）	共同運動、連合反応について学ぶ。Brunnstrom testを実施、理解することができる		
2	Brunnstrom test（下肢）（秋山）	Brunnstrom testに対する考え方、実践を通じて理解する		
3	Brunnstrom test（上肢）（秋山）	Brunnstrom testに対する考え方、実践を通じて理解する		
4	Brunnstrom test（手指）（秋山）	Brunnstrom testに対する考え方、実践を通じて理解する		
5	SIAS（秋山）	概要説明、運動機能・筋緊張		
6	SIAS（秋山）	感覚機能・関節可動域・疼痛・体幹機能・高次脳機能・健側機能		
7	運動失調検査	協調性障害の知識を身につけ、四肢・体幹の運動失調検査を実施		
8	運動失調検査	協調性障害の知識を身につけ、四肢・体幹の運動失調検査を実施		
9	運動失調検査	協調性障害の知識を身につけ、四肢・体幹の運動失調検査を実施		
10	感覚・知覚検査	感覚・知覚とは。表在感覚、深部感覚、痛覚の検査方法。		
11	感覚・知覚検査	感覚・知覚とは。表在感覚、深部感覚、痛覚の検査方法。		
12	予備日	全体を通じて実技練習、補足が必要であれば実施する		
13	習得度確認	実技試験		
14	習得度確認	実技試験		
15	習得度確認	実技試験		
教科書・参考書・資料				
教科書：PT・OT入門 イラストでわかる評価学 上杉雅之編 医歯薬出版株式会社				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：10点、素点：実技試験90点（秋山45点、富永45点）		実技練習に望ましい服装で参加すること		

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		理学療法評価学Ⅳ (MMT) では、脳から脊髄神経、前角細胞、末梢神経、神経筋接合部、筋肉、骨、関節を介して行われる関節運動を用いて、一連のシステムが正常な状態であるのか、問題があるのか、筋力を徒手的にはかることで、評価する方法を学ぶものとする。	①筋肉の起始、停止、支配神経、髄節レベル、運動を立体的なイメージを伴って理解する。②評価基準を明確にし、実技を的確に実施できるようにする。
理学療法学科：	富永		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
専門分野	時間数 1	コマ数 30	
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	MMTの定義・意義	MMTの測定対象、判定基準、代償動作の意義、検査上の注意点などについて学ぶ	
2	上肢のMMT	肩甲骨（外転・上方回旋、挙上、内転、下制・内転、内転・下方回旋、下制）	
3	上肢のMMT	肩関節（屈曲、伸展、外転、水平外転、水平内転、外旋、内旋）	
4	上肢のMMT	肘関節（屈曲、伸展） 前腕（回外、回内） 手関節（屈曲、伸展）	
5	上肢のMMT	代償動作確認	
6	体幹のMMT	頭部（屈曲、伸展） 頸部（屈曲、伸展、回旋） 頭頸部（屈曲、伸展）	
7	上肢・頭頸部のMMT	復習、実技練習	
8	習得度の確認	実技試験	
9	下肢のMMT	股関節（屈曲、屈曲・外転・外旋、伸展、外転、内転）	
10	下肢のMMT	股関節（外旋、内旋） 膝関節（屈曲、伸展）	
11	下肢のMMT	足関節（背屈・内がえし、内返し、底屈・外がえし）	
12	下肢のMMT	代償動作確認	
13	体幹のMMT	体幹（屈曲、伸展、回旋） 骨盤（挙上）	
14	下肢・体幹のMMT	復習、実技練習	
15	習得度の確認	実技試験	
教科書・参考書・資料			
参考書：●津山直一訳『新・徒手筋力検査法 原著第10版』協同医学出版社 2021 ●その他必要に応じてプリント配布			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点、素点：90点（実技試験）		実技が主体となるため、動きやすい服装で臨むこと。	

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		近年、検査装置の発展により画像情報の種類や内容が進歩してきた。画像情報は診断のみならず、リハビリテーションを実施する際の評価・治療に有用な情報を与えてくれる。本講義では、画像を読影することで得られる情報から患者の病態理解および適切な介入に繋げることを目的とする	①正常画像を理解する。 ②各疾患の特徴的な異常画像を理解する。 ③見慣れる。
理学療法評価学VI (画像診断)			
専門分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 本間里美		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	正常画像を知ろう	CT・MRI脳画像のしくみ	
2	正常画像を知ろう	画像から脳の領域を見極めよう	
3	症例画像チャレンジ	脳梗塞・脳出血	
4	症例画像チャレンジ	クモ膜下出血・外傷性脳損傷	
5	運動機能評価としての画像読影について	画像情報が、診断だけでなく機能評価につながることを理解する。また、各種撮影装置について理解する。	
6	運動器の正常画像を知ろう	各部位の正常画像について理解する。	
7	各疾患の異常画像を理解する。①	代表的な整形疾患の画像を理解する。	
8	各疾患の異常画像を理解する。②	代表的な整形疾患の画像を理解する。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
資料：適時配布する。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
能動的参加点：10% 期末試験90%（本間50%、藤原40%）		.	

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		理学療法評価学Ⅰ～Ⅳで行なった検査の実技内容を再度振り替り、他学年も交えたグループディスカッションを通じて技術や理解を深めていく。	①検査項目を正確かつスムーズに行うことができる。 ②技能の習得度を高める。 ③リスク管理をすることができる。	
理学療法評価学演習				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション	目標値の設定		
2	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
3	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
4	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
5	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
6	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
7	各検査の実演、グループディスカッション	ROM-T、MMT・触診、形態測定、反射検査、バイタルサイン、知覚・運動覚検査のいずれかを各担当教員、1年生、3年生の監視のもと実演する。		
8	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
9	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
10	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
11	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
12	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
13	症例演習	模擬症例に対して検査・測定を実施し、解剖学的・運動学的・生理学的な意義を確認する。		
14	添削会	計測値について解剖学・運動学・生理学をもとに解釈・説明できるようになる。		
15	筆記試験	理解度の確認と、自ら立てた目標点の達成度の確認		
教科書・参考書・資料				
参考書：松澤正『理学療法評価学 改訂第5版』金原出版 2016				
判定基準/割合		履修上の留意点		
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		他学年と連携した授業となるため、事前課題や練習日時などスケジュール管理に留意し、コミュニケーションを図りながら取り組むことが望ましい。参加にあたっては清潔感ある容姿であることが基本条件となる。		

PT2年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		物理療法について、背景となる物理現象から治療としての内容（生体への影響、効果）まで理論を学ぶ。また、各治療機器の使い方も実習する。	超音波療法、光線療法について理解する。	
物理療法学Ⅰ				
専門分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	秋山			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	温熱療法、ホットパック	温熱療法の種類、非熱について、熱の移動方法、組織別の暖める手段について理解する		
2	超短波、極超短波、赤外線1	エネルギー変換熱の原理、各種療法の原理について理解する		
3	超短波、極超短波、赤外線2	各種療法の使用方法、実技含めて実践できるようになる		
4	超音波療法	基礎原理、有効照射面積・ビーム不均等率などを理解する。実践できるようになる		
5	レーザー治療	レーザーの発生原理、レーザー光線の特徴、リスクなどを理解する		
6	紫外線療法、バイオフィードバック療法	紫外線療法の基礎原理、MEDテストについて。バイオフィードバック療法の基礎原理、具体的実践例について		
7	実技	上記で示した物理療法について実践できるようになるべく体験する		
8	習得確認	本試験		
9	・	・		
10	・	・		
11	・	・		
12	・	・		
13	・	・		
14	・	・		
15	・	・		
教科書・参考書・資料				
最新理学療法講座 物理療法学				
判定基準/割合		履修上の留意点		
能動的参加点：10点 定期試験90点		積極的な参加を望みます。実技などもあるのでその際は動きやすい服装で参加する様にしてください。		

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		物理療法について、背景となる物理現象から作用機序までを学ぶ。	温熱療法、寒冷療法、水治療法、牽引療法、超音波、マイクロ波等について、生理学的な作用機序を説明できる。	
物理療法学Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	岡村			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	疼痛について①	疼痛の神経生理学について学ぶ		
2	疼痛について②	ゲートコントロール・下降性疼痛抑制系について学ぶ		
3	温熱療法・寒冷療法	温熱療法・寒冷療法の生理学的意義について。		
4	温熱療法・寒冷療法	温熱療法・寒冷療法の目的・適応・禁忌について。		
5	水治療法・その他（パラフィン浴、渦流浴、交代浴）	温熱療法の目的、生理的作用、禁忌事項について。		
6	牽引療法①	牽引療法の目的・原理・作用・適応・禁忌について。		
7	牽引療法②	牽引療法の目的・原理・作用・適応・禁忌について。		
8	電気刺激治療総論	電気刺激治療の目的・原理・適応・効果・禁忌を理解する。また、各疾患・各障害ごとの物理療法の使い分けができるようになる。		
9	治療的電気刺激（TENS）	干渉波刺激治療、TENSの概念を知る。干渉波、TENSに用いる電気の周波数を知る。干渉波治療、TENSの適応・禁忌・効果について説明できる。		
10	治療的電気刺激（NMES）①筋肥大	NMESの基礎知識と設定方法について学ぶ。		
11	治療的電気刺激（NMES）②痙縮抑制	痙縮軽減のためのNMESの生理学的作用機序と具体的な設定方法について学ぶ		
12	機能的電気刺激(FES) ①	FES・TESの基本原理・適応・効果・禁忌を理解する。		
13	超音波療法・マイクロ波	超音波療法・マイクロ波の原理と適応と学ぶ。		
14	超音波療法・マイクロ波	超音波療法・マイクロ波の原理と適応と学ぶ。		
15	筆記試験	知識の習得度を確認する		
教科書・参考書・資料				
参考書：庄本康治編『エビデンスから身につける物理療法』羊土社 2017 烏野大『物理療法学』医歯薬出版株式会社 2021				
判定基準/割合		履修上の留意点		
素点：90点 平常点：10点		人体の機能1で作成したノートを持参すること。講義動画を有効に活用すること。		

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		臨床にてよく用いられる装具や伝統的な装具について、装着効果の力学的解釈、各装具の特徴を学ぶ。	装具のバイオメカニクスについて理解する。また、基本的な装具の特徴や名称について知識を習得する。
装具学			
専門分野 時間数 1 コマ数 20			
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	藤原		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論、装具のバイオメカニクス、歩行の基礎	装具の目的や分類、3点固定の原理、制作の流れを理解する。歩行のバイオメカニクスについて理解する。正常歩行と異常歩行（関節固定）の違いについて理解する。	
2	下肢装具の分類と名称	下肢装具を構成する各関節の継手や足部などの基本的な部品の名称・構造・機能について理解する。	
3	短下肢装具：金属支柱付き・プラスチック製	短下肢装具の特徴や種類、基本的な構造や機能について理解する。	
4	長下肢装具、膝装具	長下肢装具・股装具・膝装具それぞれの特徴や対象疾患、種類、基本的な構造や機能について理解する。	
5	靴型装具（総論、疾患別の靴型装具とチェックポイント）	靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。	
6	下肢装具のチェックアウト	下肢装具の適合を評価する為にチェックアウト項目とその方法を理解する。	
7	体幹装具（総論、適応疾患、種類と分類①）	体幹装具の目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。	
8	体幹装具（種類と分類②、側弯症、頸椎）	体幹装具の目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。	
9	上肢装具と助具、その他	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造と機能について理解する。	
10	習得度確認	1～9回までの授業内容について習得度・理解度の確認を行う。	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
教科書：PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 参考書：装具学（医歯薬出版）日本義肢装具学会監修 加倉井周一 編、基礎運動学（医歯薬出版） 中村隆一 齋藤宏、観察による歩行分析（医学書院）、義肢装具のチェックポイント（医学書院）、理学療法テキスト 装具学（中山書店）			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：100%		.	

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		○切断に関する基礎知識および義肢を構成する要素、代表的な義肢、切断のリハビリテーションについて学ぶ。	○基本的な義肢およびその構成要素についての特徴を理解する。○義肢装着までの過程を理解する。○義肢のバイオメカニクスについて理解し、アライメント調整および異常歩行についての考察ができるようになる。
義肢学			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	小林		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	義肢総論・切断 下肢切断と機能的特徴	疫学や義肢の変遷、切断の手術手技、切断高位などについて理解する。切断部位ごとの機能的特徴や長所・短所について理解を深める。	
2	ソフトドレッシング、義足の構造と部品（足部、継手①）	断端管理や義足の構造、部品について理解を深める。構造的な特徴から、歩行時の問題点を把握する予備知識を身につける。	
3	義足の構造と部品（継手②、ライナー）	大腿義足の膝継手の特徴について、立脚、遊脚の観点から理解を深める。	
4	大腿義足：ソケット・ベンチ・スタティックアライメント	ソケットの特徴を理解し、説明することができる。ベンチアライメントやスタティックアライメントの評価に必要な知識を身につける。	
5	大腿義足：ダイナミックアライメント・チェックポイント	ダイナミックアライメントの評価に必要な知識を身につけ、義足歩行をイメージすることができる。異常歩行の原因を理解し、特定することができる。	
6	下腿義足：ソケット・ベンチ・スタティックアライメント	ソケットの特徴を理解し、説明することができる。ベンチアライメントやスタティックアライメントの評価に必要な知識を身につける。	
7	下腿義足：ダイナミックアライメント・その他	スタティックアライメントとダイナミックアライメントとの関連を理解し、アライメント不良によって起こる異常歩行を予測できる。	
8	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足	カナダ式股義足の特徴やアライメントについて理解する。膝義足・サイム義足・足部義足の特徴や長所・短所について理解を深める。	
9	義肢装具士の実務紹介（岡安）	義足の種類・義肢装具士の業務の実際について	
10	義肢全体の実物の説明（岡安）	義足アライメント調整	
11	装具、義手、足根義足、サイム義足、下腿義足（岡安）	切断部位ごとの機能的特徴や長所・短所について理解を深める。	
12	装具、義手、足根義足、サイム義足、下腿義足（岡安）	切断部位ごとの機能的特徴や長所・短所について理解を深める。	
13	義足のリハビリテーション（ビデオ）（岡安）	義足の種類・義足のリハビリについて	
14	義足のリハビリテーション（ビデオ）（岡安）	義足の種類・義足のリハビリについて	
15	習得確認	1～14回目までの授業内容について習得度・理解度の確認を行う。	
教科書・参考書・資料			
教科書：PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き（羊土社） 参考書：切断と義肢（医歯薬出版）、理学療法テキスト 義肢学（中山書店）、義肢装具のチェックポイント（医学書院）			
判定基準／割合		履修上の留意点	
課題提出：30点、定期試験：70点を総合評価する。		実習の際は動きやすい服装（ジャージなど）に着替える。	

PT2年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		ADL（日常生活動作）の基礎から評価方法を知る。また障害別の日常生活動作を理解し、動作分析・考察・治療との流れを学ぶ。 また、日常生活動作における理学療法評価で代表的とされている評価方法（バーセルインデックス、FIM）について学ぶ。	理学療法士としてのADLの考え方を学ぶ。また、ADL評価方法、疾患に応じたADL指導内容を学び臨床で用いることができるようになる。BirtheIndex/FIMに関しては適切に実践できるようになる。
日常生活動作Ⅰ			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	秋山		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	ADLの概念と範囲、QOLの概念、ADL評価	狭義のADL6項目を説明できる。マズローの段階欲求説、社会的欲求説を説明できる。BIの評価方法を説明できる。	
2	その他のADL	バーセルインデックス、Katzインデックス、その他のADL評価方法を学ぶ	
3	FIM①（運動項目前半）	食事動作の割合判定をする際の3要素を理解する。整容動作評価の男女差を理解する。トイレ動作の判定をする際の3要素を理解する。	
4	FIM②（運動項目後半）	トイレ移乗・浴槽移乗の評価の違いを説明できる。移動を評価する移動距離を説明できる。階段昇降の評価段数を言える。	
5	FIM③（認知項目）	社会的交流の評価範囲を説明できる。問題解決の評価範囲を説明できる。記憶を評価する3要素を説明できる。	
6	ICFについて	国際機能分類（ICF）の項目、攻勢を理解し問題点抽出をできるようになる。	
7	FIM④習得状況確認試験	第2～4講義範囲分確認テスト	
8	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作を知る上での基礎知識を学ぶ。（ザンコリーの分類・ASIAの分類など）	
9	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作①～C4損傷患者の日常生活動作の方法、リハビリテーションの指導方法などを学ぶ	
10	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作② C5,C6損傷患者の食事動作・更衣動作の方法などを学ぶ。一部実技体験を含む	
11	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作③ 脊髄損傷患者の寝返り動作・起き上がり動作の方法論を学ぶ	
12	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作④ 脊髄損傷患者の立ち上がり・除圧動作の方法論を学ぶ	
13	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作⑤ 脊髄損傷患者のトランスファー、移乗動作、車椅子駆動方法などを学ぶ	
14	疾患におけるADL各論	脊髄損傷患者のADL動作⑥ 脊髄損傷患者の自動車運転等様々な応用日常生活の方法などを学ぶ	
15	理解度の確認	本試験	
教科書・参考書・資料			
参考書：図書室にあるADL関係参考書 脳卒中患者の機能評価（SIASとFIMの実際） 千野直一著			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：30点（出席点：10点、小テスト20点） 素点：70点		実技を行う際は動きやすい服装をする。	

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		自立に向け、あるいはADL介助量軽減するための誘導、介助方法を学ぶ。	計測実習に向けて、基本的な介助方法を学び、アクシデントを防ぐリスク管理の要点を考慮した介助方法が実施できる。	
日常生活動作Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション、寝返り	寝返り動作の指導、介助を行うことができる		
2	寝返り・起き上がり動作	寝返り動作・起き上がり動作の介助を行うことができる		
3	立ち上がり	立ち上がり動作の介助、環境設定を行うことができる		
4	移乗動作	障害の程度に合わせた移乗動作を学ぶことができる		
5	移乗動作・ルート管理	基本的な移乗動作に加えて、点滴などのルート管理下で移乗介助を行うことができる		
6	起居・移乗動作	起居・移乗動作の一連の流れの復習		
7	予備日	全体を通じて実技練習、補足が必要であれば実施する		
8	習得度の確認	寝返り、立ち上がり、移乗動作の介助方法の実技テスト		
9	習得度の確認	寝返り、立ち上がり、移乗動作の介助方法の実技テスト		
10	トイレ動作	トイレ動作介助方法指導		
11	床からの立ち上がり	台を利用して床から立ち上がり、床からの立ち上がり動作介助方法指導		
12	床からの立ち上がり	台を利用して床から立ち上がり、床からの立ち上がり動作介助方法指導		
13	歩行・階段	各種杖の使い方、歩行器の使い方、介助歩行の方法を学ぶ		
14	国家試験対策	ADLに関連する国家試験問題を実施する		
15	国家試験対策	ADLに関連する国家試験問題を実施する		
教科書・参考書・資料				
授業プリントを配布				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：10点、素点：90点（実技試験）		実技演習にふさわしい服装で参加してください		

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		難病と言われる中枢神経疾患や変性疾患、脱髄性疾患などのメカニズム、症状、経過、評価、治療について学ぶ。	近年、リハビリテーションの対象となる疾患の中心は脳血管障害や老人性痴呆、パーキンソン病などの中枢神経系の疾患と骨関節疾患に移りつつある。また、マイナーな疾患であるが重要な疾患である筋ジストロフィーやALS、脊髄小脳変性症などの病態とリハビリテーション方法を知る。	
変性疾患理学療法治療学				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○小林			
作業療法学科：				
非常勤講師：	本間里美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	脊髄小脳変性症 症状と経過	小脳の解剖・生理の確認をしながら、病態と症状のメカニズムを知識としてつなげ経過を学ぶ		
2	運動失調に対する治療	評価法、理学療法、フレンケル体操		
3	多系統萎縮症の病態から治療まで	経過、評価、治療		
4	パーキンソン病のリハビリテーション	病態と症状のメカニズムを知識としてつなげ経過を学ぶ		
5	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病の評価と理学療法、LSVT BIG		
6	総論	これから学ぶ疾患の疾患分類とその意味、神経変性疾患、筋変性の定義を学ぶ		
7	ギランバレー症候群のリハビリテーション	：症状・経過・評価・治療		
8	多発性硬化症に対する治療	：症状・経過・評価・治療		
9	ALS	：症状・経過		
10	ALS	：評価・治療		
11	筋ジストロフィーのリハビリテーション総論	基本となる症状、経過、評価、治療		
12	筋ジストロフィーのリハビリテーション各論	：ミオパチー、DMD、ベッカー型、顔面肩甲上腕型、肢体型、福山型、遠位型、筋硬直性		
13	変性疾患患者暮らしとリハビリテーション1	進行とどう向き合い生きていくのか当事者のくらしを学び、リハビリテーションの役割を考える		
14	変性疾患患者のくらしとリハビリテーション	当事者の暮らしを支えるチーム連携、理学療法士の役割を考える		
15	理解度確認	筆記試験により理解度を確認		
教科書・参考書・資料				
教科書：神経障害理学療法学Ⅱ（メディカルビュー社）				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：10%，素点：90%				

PT2年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		個々人に適した環境を設定するため、福祉用具・住宅改修に関する基本的な知識および技術を学習する。	1. 生活を支援する視点で、住宅改修の指導や助言を臨床で行えるようになることを目標とする。2. 住宅改修の現場で活動する方々の講義を通して、住宅改修の実際について触れりハビリテーションへの応用を考えることができる。
住宅改修			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○富永 本間里美		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	段差の解消	○屋外屋内間の段差解消 ○屋内の段差解消	
2	段差の解消	○屋外屋内間の段差解消 ○屋内の段差解消	
3	手すり、建具	○手すりの種類 ○建具の種類	
4	手すり、建具	○手すりの種類 ○建具の種類	
5	建具、スペース、家具	○建具と有効福音の関係 ○スペースの確保 ○家具の配置	
6	建具、スペース、家具	○建具と有効福音の関係 ○スペースの確保 ○家具の配置	
7	玄関、廊下、居室	○玄関、廊下の改修 ○居室の改修	
8	玄関、廊下、居室	○玄関、廊下の改修 ○居室の改修	
9	トイレ	○トイレの改修	
10	トイレ	○トイレの改修	
11	入浴、脱衣所、キッチン、寝室	○風呂場の改修 ○脱衣所の改修 ○キッチンの改修 ○寝室の改修	
12	疾患と住宅改修	疾患による住宅改修のポイント①脳血管障害、変性疾患等	
13	疾患と住宅改修	疾患による住宅改修のポイント②切筋、リウマチ、内部障害等	
14	疾患と住宅改修	疾患による住宅改修のポイント③視聴覚障害、知的障害、高次脳機能障害等	
15	理解度確認	1~14回までの習得度を確認する（本試験）	
教科書・参考書・資料			
福祉住環境コーディネーター2級 公式テキスト：東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級過去問題集&実力テスト：ハウジングエージェンシー			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点 10点 満点 90点		オンラインで実施される国際福祉機器展に参加する。福祉住環境コーディネーター受験を推奨する（11月・12月オンライン）。	

PT2年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		<p>学生は1名ずつ一カ所の病院または施設において、実習指導者の指導のもとに5日間の計測実習を実施する。実習終了後に報告書を提出する。レポートやレジュメ等の課題は実習指導者の指示に従う。</p>	<p>各病院、施設において患者（対象者）および施設スタッフと適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築ける。3年前期までに学内で学んだ評価学を基礎にして、実際の患者（対象者）に対して、計測および基本的な理学療法評価を実施する。</p>	
臨床計測実習				
専門分野	時間数 1			コマ数 40
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
2	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
3	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
4	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
5	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
6	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
7	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
8	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
9	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
10	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
11	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
12	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
13	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
14	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
15	現場実習	臨床現場において5日間の計測実習を実施する。		
教科書・参考書・資料				
理学療法評価学、徒手筋力検査法、その他				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：実習施設50点、学内学習(登院試験)50点を総合評価する。		実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる（実習に即した容姿の在り方を各自が判断できるように）。		

PT2年	前期	講義概要	一般目標
その他		<p>・授業開始時に模擬試験の目標点を設定し、達成するための計画立案、実行、修正を行う。グループワークとして他学年（1年生、3年生、4年生）と協同して基礎科目（生理学）を学ぶ。</p>	<p>自ら設定した目標に対して主体的に取り組める。また目標達成にあたり、計画をたて、実行し、修正することができ、ある一定の成果を出せる。基礎科目の内容を専門科目との関連性も含めて説明できる。</p>
総合共同演習 II			
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	目標点の設定	
2	他学年とのグループワーク（生理学）①	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
3	他学年とのグループワーク（生理学）②	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
4	他学年とのグループワーク（生理学）③	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
5	他学年とのグループワーク（生理学）④	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
6	他学年とのグループワーク（生理学）⑤発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。	
7	他学年とのグループワーク（生理学）⑥発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。	
8	理解度の確認	筆記試験にて自ら立てた目標点の達成度の確認をする。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
参考書：竹内昭博著 『Qシリーズ 新生理学』 日本医事新報社 2018			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		常に基礎科目（生理学）として授業に参加すること。グループワークであるため、疑問があれば積極的に先輩に質問し、問いを解決すること。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
その他		1 年次履修した人体の構造・人体の機能・運動学を総復習し、年度末に実施される「全国合同3科目統一模擬試験」の対策をする講義とする。	「全国合同3科目統一模擬試験」にて各個人の設定する目標点に到達することを目標とする。また国家試験問題に多く触れ、国家試験の傾向をつかむことも目的とする。
総合問題演習Ⅱ			
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	演習	縦割り授業の振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
2	演習	縦割り授業の振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
3	演習	縦割り授業の振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
4	発表	上記でまとめたものを発表する。	
5	演習	計測実習で学んだことの振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
6	演習	計測実習で学んだことの振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
7	演習	計測実習で学んだことの振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
8	演習	計測実習で学んだことの振り返りとして、資料作成ならびに発表原稿作成を通じて解剖・運動・生理学を復習・また発表準備をしていく	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
それぞれの縦割り・計測実習で使用した成果物・実習要項を使用します。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：能動的参加点10点、発表点（縦割り発表会45点、計測実習セミナー45点）		積極的な参加を望みます。特に発表の際は積極的に質問をする様にしましょう。	

PT2年	通年	講義概要	一般目標
その他 臨床思考演習 II		上級生が実施する実技試験、ならびにセミナー発表に参加することで、臨床の疑似体験や思考を学び、今後の学習に活かす。	医療専門職として必要となる思考力・表現力を高める。また上級生との交流を通じて社会人基礎力を高めることを目標とする。
その他 時間数 1 コマ数 15			
理学療法学科： ○藤原,富永 作業療法学科： 非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	実技見学（3年生評価実習前登院試験の見学）	3年生実習前登院試験見学を通じて今後勉強する実技の思考・現在の課題などを学ぶ。	
2	実技見学（3年生評価実習前登院試験の見学）	3年生実習前登院試験見学を通じて今後勉強する実技の思考・現在の課題などを学ぶ。	
3	症例報告会の見学	3年生の症例報告会の見学をすることで今後のレポート作成の思考を学ぶ	
4	症例報告会の見学	3年生の症例報告会の見学をすることで今後のレポート作成の思考を学ぶ	
5	計測実習前登院試験	臨床評価実習に向けた事前評価を実施する。	
6	計測実習前登院試験	臨床評価実習に向けた事前評価を実施する。	
7	計測実習報告会	計測実習後報告会で発表・他学生の発表を聴講することで計測実習で学んだ思考をシェアする。	
8	計測実習報告会	計測実習後報告会で発表・他学生の発表を聴講することで計測実習で学んだ思考をシェアする。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
特になし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：能動的参加点10点、課題発表後の感想文と発表90点		積極的な参加を望みます。	